

「協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進」

昨年度に引き続き、今年度も本学と国内協定校である、愛知東邦大学、中京学院大学を本学にお迎えし、2024年2月27日(火)から2月29日(木)の3日間にわたり、学生交流ならびに、FD活動をおこなった。

まず、2月27日(火)15時に学問の神 菅原道真が祀られる太宰府天満宮を訪れ、帰路、バスの中からはあったが、令和の典拠となった「初春の令月、気淑(うるわ)しく風和らぐ」の文言ゆかりの坂本八幡宮を眺め、穏やかな春の福岡を感じていただいた。

2月28日(水)本学深耕館 S407 教室において、学生 10 組による研究発表を行った。

本学からは、宇曾未夢さん(経済学部地域創造学科4年)による「あそぼうさい」についての発表と酒井蒔絵さん(経済学部地域創造学科2年)による「子ども食堂」について発表を行った。

本学の学生発表をおこなった経済学部地域創造学科4年宇曾未夢さんは「皆さんの発表を聞いてそれぞれの地域の特性を知ることができ、聞きやすい発表を学ぶことができた。」、同2年酒井蒔絵さんは「日頃関わっているものが大きく異なる地区の人たちと意見を交換する機会がなかったので、緊張のなか、一生懸命意見を出すことができて、自身の成長に大きくなつた。」と、それぞれが振り返りをとおして、貴重な学びの時間を過ごしてくれたようであった。

次いで、九州女子大学の学生が九州女子大学で行った「わくわくパーク」の取組について発表を行った。また中京学院大学の学生は、大学周辺や地元を活性化する方法について発表を行った。さらに愛知東邦大学の学生は、学生主体の検定推進活動や、大学祭での活動報告について発表を行った。

その後、堂野崎融先生によるグループワーク「テーマ:地域(産業)資源の活用」、愛知東邦大学地域創造研究所による中京学院大学の犬須賀元彦先生の講演テーマ:地域における課題解決型講義の実践報告など、時間の限り、とても活発な交流のひと時を過ごした。

2月29日(木)最終日は、小倉北区に本社を構える TOTO 株式会社の TOTO ミュージアムで TOTO グループの取り組みを通じた SDGs への貢献について学ぶツアーを体験するとともに、名古屋の陶業とも深くかかわっていることなどを知ることができ、とても興味深いものとなった。

FD のなかで、2024 年度も日本ビジネス実務学会の全国大会への研究発表をエントリーすることとし、今後もさらなる協定校連携を続けていくことを確認した。

